

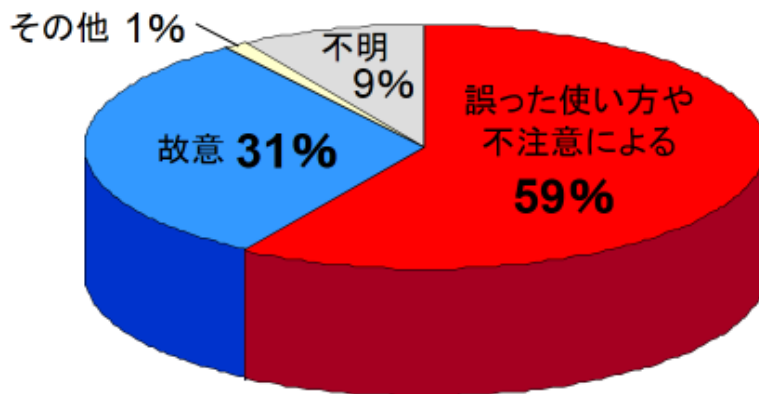
中毒 110 番 市民向け啓発教材「みんなで防ごう！ 身近な中毒事故」
成人編・高齢者編の要点

PART 2 成人編：守っていますか？使い方

中毒110番：家庭での中毒事故と予防策



化学製品による中毒事故は、子どもの誤飲や認知症のある高齢者だけのものではありません。
誤った使い方や不注意による成人の中毒事故は、意外に多く発生しています。



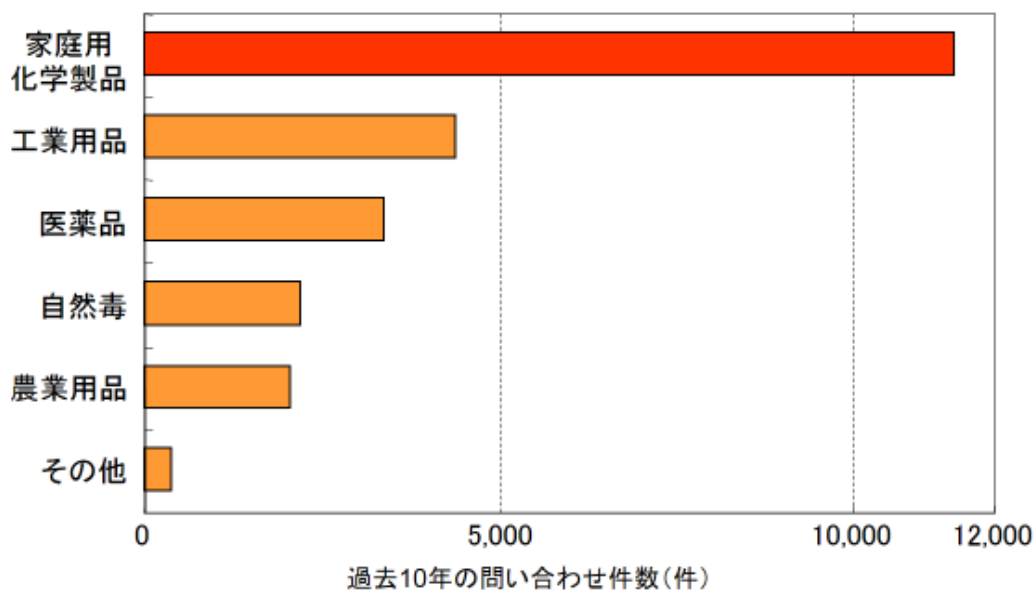
成人の中毒事故発生状況

(財)日本中毒情報センター受信状況より



成人の中毒事故の原因となる物は、家庭用化学製品（洗剤・洗浄剤、殺虫剤など）が大変多いのです。

成人の誤った使い方や不注意による中毒事故原因となった物



(財)日本中毒情報センター受信状況より

中毒 110 番 市民向け啓発教材「みんなで防ごう！ 身近な中毒事故」
成人編・高齢者編の要点

1. 飲み物などと間違える事故や手作り品による事故とその予防策

- ・妻が湯呑みの茶渋を取るために、湯呑みに漂白剤を注いで台所に放置した。夫が漂白中であることに気付かず、湯呑みを濯がずにお茶を入れて飲んだ。

→ 予防策 **漂白剤を食器に直接注がない、流しの中で洗い桶を使用し、希釈して漂白する**

- ・妻がポット洗浄剤をポットに入れ、ポットの電源を抜いておいた。夫が知らずに電源を入れ、沸騰した洗浄液でカップラーメンを作って食べた。

→ 予防策 **張り紙などで洗浄中であることを周知する**

- ・妻がアルコール、グリセリン、尿素を使って手作り化粧水を作り、ペットボトルに入れて冷蔵庫に保管した。夫がミネラルウォーターと勘違いして飲んだ。

→ 予防策 **冷蔵庫には食品以外の物を保管しない、やむを得ず保管する場合は、別容器などに入れて食品と間違えないようにする**

2. 製品の使用方法を守らなかったことによる事故とその予防策

- ・塩素系漂白剤を使ってトイレ掃除中、漂白剤が無くなったので酸性タイプの洗浄剤を続けて使ったところ、眼が痛くなり、気分も悪くなった。

→ 予防策 **容器に書いてある製品の特徴（塩素系漂白剤、酸性洗浄剤など）、「まぜるな 危険」などの注意書きを、使う前に読んで、必ず守る**

- ・玄関で防水スプレーを1本使いきったところ、咳が出て息苦しくなった。

→ 予防策 **容器に書いてある「使用量の目安」や「使用場所」などの注意書きを、使う前に読んで、必ず守る**

- ・一般的なスプレータイプ殺虫剤と勘違いして、全量噴射式エアゾール殺虫剤の噴射ボタンを押し、薬剤の噴射が止まらなくなった。

→ 予防策 **使う前に、容器に書いてある「使用方法」などの注意書きを読んで、必ず守る**

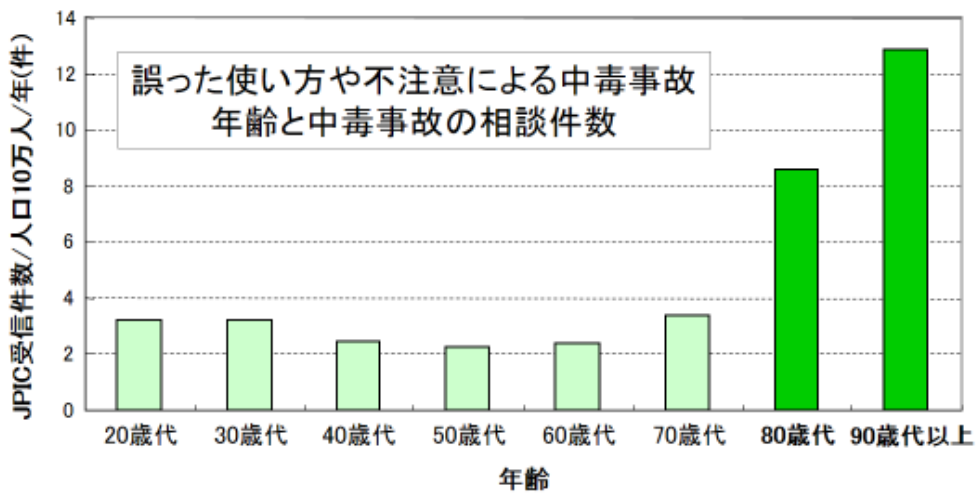
中毒 110 番 市民向け啓発教材「みんなで防ごう！ 身近な中毒事故」
成人編・高齢者編の要点

PART 3 高齢者編：あっ 危ない！ 高齢者の中毒事故

中毒 110 番：これが家庭での防止策



高齢者は視覚や味覚の衰え、認知症などのために、誤った使い方や不注意による中毒事故が成人に比べて大変起こりやすくなります。
20歳代～70歳代に比べて、80歳代、90歳代は中毒110番への相談件数が2～4倍です。

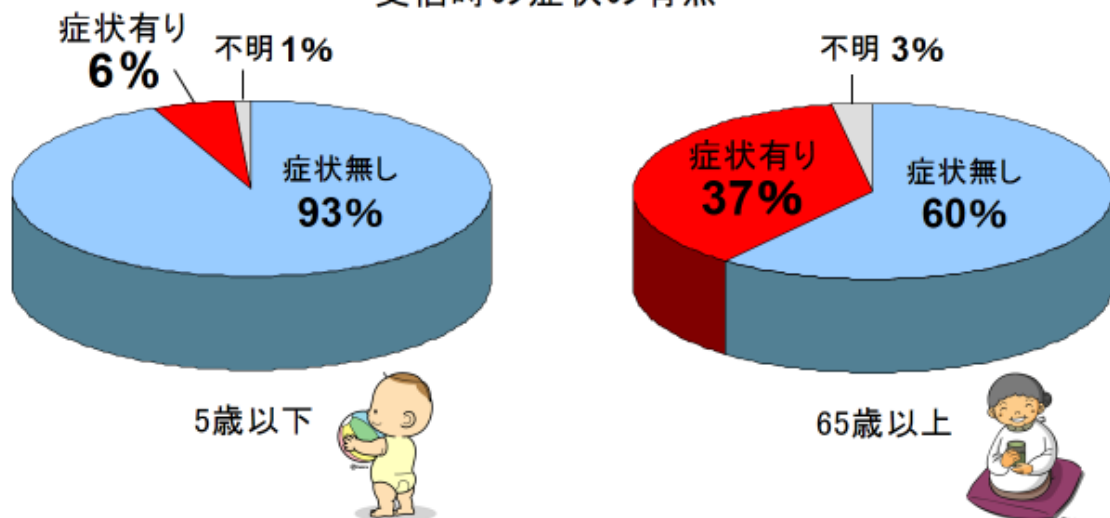


(財)日本中毒情報センター受信状況より



また、高齢者は、経口摂取した場合大量に食べてしまうため、相談を受けたときには既に症状が出ていることが多いのです。重篤化しやすく、中毒事故を未然に防ぐことが大切です。

受信時の症状の有無



(財)日本中毒情報センター受信状況より

中毒 110 番 市民向け啓発教材「みんなで防ごう！ 身近な中毒事故」
成人編・高齢者編の要点



高齢者で事故が多い製品には、以下のようなものがあります。
ほとんどは、食品と間違えて食べてしまう事故です。

高齢者で事故が多い製品

食品と一緒についてくる	乾燥剤、鮮度保持剤、保冷剤など 例) 生麺についている鮮度保持剤を薬味と間違える 生菓자에添付されている保冷剤をシロップと間違える
容器や中身が食品と似ている	芳香剤、台所洗剤など 例) ゼリータイプの芳香剤を食品のゼリーと間違える 台所洗剤を清涼飲料水やサラダ油と間違える
高齢者がよく使う	入れ歯洗浄剤、ポータブルトイレ用防臭剤など 例) 入れ歯洗浄剤をトローチと間違える 粉末タイプのポータブルトイレ用防臭剤を飲み薬と間違える
認知症がある人に多い	外用薬(塗り薬)、使い捨てカイロ、保冷枕、紙おむつ、防虫剤など



高齢者の中毒事故を未然に防ぐために以下の3つを心がけましょう！
また、「家庭内での中毒事故防止チェックリスト」で、成人と高齢者の中毒事故について、現在どの程度できているかを確認してみましょう。

1. 食品や薬とそれ以外のものは分けて保管する、薬は使い方や目的ごとに分けて保管する
2. 使う前に製品をよく確認する、よく見えない状況では使用しない
3. 家族や介護する人は製品の使用と保管に十分注意する

「家庭内での中毒事故防止チェックリスト 成人編/高齢者編」
は次ページです